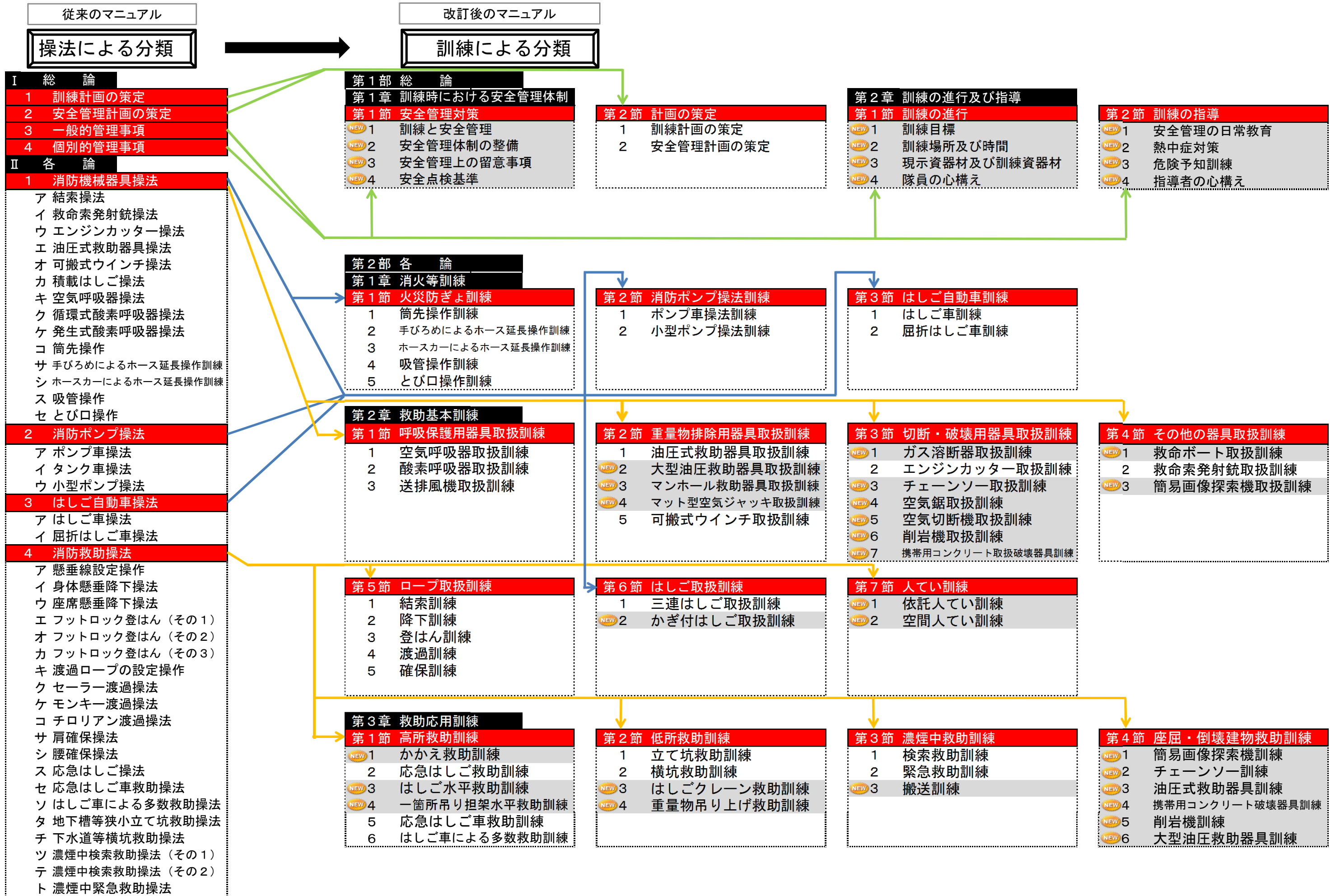


# 訓練時における安全管理マニュアルの骨子（案）



## 4 渡過訓練

### （1）訓練の内容

渡過訓練とは、災害現場と隣接建物等との間又は河川の中洲等と河岸との間などにロープを展張し、要救助者を救助するための訓練である。なお、渡過操法には、セーラー渡過操法、モンキー渡過操法及びチロリアン渡過操法がある。



【セーラー渡過】



【モンキー渡過】



【チロリアン渡過】

### （2）使用資機材

- ・ 渡過用ロープ
- ・ 小綱
- ・ カラビナ

### （3）安全管理のポイント

- ① 渡過員は、空間に展張されたロープを渡過するので必ず命綱をつけるものとし、その結着は確実にを行うこと。また渡過する前には、ロープにかけた命綱のカラビナの安全環が確実に締まっていることを確認すること。
- ② 渡過訓練は、低所から高所へと錬度に応じて段階的に実施すること。
- ③ 渡過ロープと命綱の接触する部分には、ロープの損傷防止の処置をすること。
- ④ 渡過ロープの設定にあたっては、係留点を綿密に点検し、その結着を複数にするほか、仮に渡過員が宙吊りになっても、地物に接触しない場所を選定するなどの配慮すること。
- ⑤ 渡過員の渡過が完了したならば、自己の安全姿勢を確保したのち、渡過ロープからカラビナを外すようにし、操作完了後も手順を誤らないこと。
- ⑥ 安全ネットその他安全器具を活用し、渡過員の安全を確保すること。

(4) 事故事例

- ① 命綱のカラビナが外れ、地上5.5mの高さから転落、重傷を負った。
- ② セーラー渡過が終了し、渡過ロープから下りる時、次に渡過しようとした隊員が、急に渡過ロープに乗ったため、ロープの振動があり、バランスを崩して腰をひねり、腰部を捻挫した。
- ③ 斜めに設定した渡過ロープを下方から上方にモンキー渡過していたところ、連続の渡過のために疲労し、渡過ロープ中間付近で、足がロープから外れ、かつ、手も離れたため、下方の係留点まで滑り、係留点の壁体に肩を強打し、打撲傷を負った。
- ④ チロリアン渡過中、カラビナと渡過ロープの間に右手の親指が手袋とともに引き込まれ、右手親指末端骨を骨折した。
- ⑤ 座席の縛着が緩いままチロリアン渡過をしたところ、渡過終了後、両手を離し、座席に体重をかけた瞬間、座席から腰が抜け、地面に落下、右鎖骨を骨折した。

(5) ヒヤリハット事例

- ① セーラー渡過からターンをしてモンキー渡過に転じる動作中、渡過ロープにかけていた命綱のカラビナが不意に外れたもの。
- ② ロープブリッジ救出の施設設定の為にチルホールで2本合わせのロープを展張中に発生したものであり、2本合わせロープのうち1本が破断、もう1本は破断寸前となり、2本破断した場合は、跳ね返りにより展張作業者の負傷が考えられた。
- ③ ロープブリッジ救出訓練時、座席結びを実施後、渡過姿勢をとる際、一段下の足場部分へ降りるとき、ロープを握りながら足場部分へ移動したとき、ロープが動き体制が崩れ足場部分（約1m）に転落した。